

To Be!

見つける、叶える、なりたい自分。それが東北文教大流。



広がる学びの 可能性

ラーニング コモンズ Learning commons



約12万冊の蔵書数を誇り、
教育と研究の拠点となっている
東北文科大学の附属図書館。
今年度から、文献や電子情報を活用しながら
ディスカッションやグループ学習もできる
“ラーニングコモンズ”の設備が新設され、
多様な学びの形が生まれています。

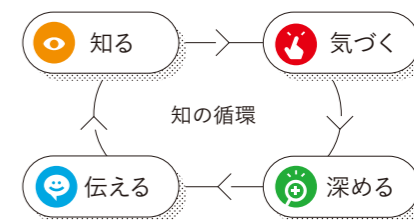


Point 2

4つの学びの循環をつくる

学びのプロセスは、大きく4つの場面に分けられます。1つ目は文献や電子情報を使って知識を蓄積する“知る”場。次に、他者との交流を通して様々な発見をする“気づく”場。そしてグループ学習やディスカッションによって思考を“深める”場、さらに深めた知識を多くの人と共有する“伝える”場。これらの学びのプロセスをスムーズに進められるよう支援し、学習の質を高めていくことがラーニングコモンズの果たす役割です。4つの学びのプロセスから生まれる“知の循環”。それは、社会に出ても同じように必要とされるもの。どんな職業においても活かしていけるものです。

学びのプロセス



Point 1

“静”と“動” 多様な学習スタイルをサポート

ラーニングコモンズとは、様々なヒト・モノ・コト・情報と出会い、それらを仲間と議論し、発展させていくことにより、新しい学びの可能性を生み出していく学習空間のこと。本学の教育プログラムにおいて主軸となっている、双方向的な学習スタイル“アクティブラーニング”を体現する設備でもあります。

ラーニングコモンズの中核をなしているのは本学の附属図書館。その学習環境は大きく分けて“静”と“動”の2つの空間からなります。静の学習空間は、一人ひとりの空間が壁で仕切られた個人学習スペース。豊富な蔵書や電子情報を活用しながら、自分のペースで研究や課題にじっくり向き合うことのできる空間です。一方、動の学習空間は、複数の学生が集まり、ディスカッションや

プレゼンテーションを通して学びを深めるグループ学習スペース。アクティブラーニングの要素が強い、活気にあふれる空間です。静と動、相反するものを両立させ、バランスよく配置することで学生一人ひとりの学習スタイルに柔軟に対応しています。

ラーニングコモンズの設備は図書館以外にも、学生ホールや食堂に設置されています。これらの場所では飲食もでき、リラックスした雰囲気でのコミュニケーションを楽しむ学生も多く、学生同士の交流の場としても機能しています。

学内の学習設備が充実したことにより、今まで以上に図書館や学生ホールを利用する学生が増え、各々のスタイルで前向きに学習に取り組む姿が見られるようになりました。学内の様々な場所に、学びと出会いの輪が広がっています。

Point 3

使い方いろいろ ラーニングコモンズの設備

図書館や学生ホール、食堂など、学内の計8箇所に点在する東北文科大学のラーニングコモンズの学習エリア。その一部をご紹介します。



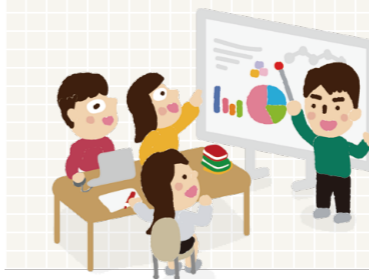
グループ学習エリア
(図書館1階)

6人～12人の比較的少人数でグループ学習ができるスペースです。間仕切り・ホワイトボードがあり、討論や打合せに便利です。またプロジェクターの貸し出しも可能で、プレゼンテーションなどにも活用されています。



ブラウジングスペース
(図書館2階)

移動可能な椅子とテーブルを60席配置。少人数から大人数までのグループ学習はもちろん、教卓があり授業でも利用できます。近くには学術雑誌や専門図書、絵本のコーナーもあり、中にはここで絵本の読み聞かせの練習をする学生の姿も。使い方は様々です。



東北文教大生は
どこでどんな時間を過ごしてる？



学びを深められる
充実した環境に感謝。

my SPACE

1

附属図書館

豊富なジャンルの蔵書が揃っている附属図書館。自己学習をする時や友達とテスト勉強をする時など、多様なシーンで活用しています。普段から本が好きで、よく読むのは認知症に関する著書。将来は、利用者の方々が望んでいる生活を尊重し、実現していける介護福祉士を目指したいです。

短期大学部
人間福祉学科 / 1年
八塚みのりさん
山形県立新庄高等学校最上校出身



学内には様々な施設・設備があります。
そこは“力”をはぐくむ場所であるとともに、
東北文教大生の学生生活の1ページを彩る場所でもあります。
今回は代表して6名の在學生に登場してもらい、
お気に入りの場所でどんな時間を過ごしているか教えてもらいました。

my SPACE

4

P.M.L室

授業中以外は自由に使うことができるP.M.L室。ピアノを思う存分練習できる、お気に入りの場所です。1人での練習はもちろん、友達と息を合わせて、2人でアンサンブルの練習に打ち込むこともありました。来年度からは幼稚園教諭として、子どもたちと音楽を通して楽しい時間を育みたいです。

短期大学部
子ども学科 / 2年
庄司悠衣さん
山形学院高等学校出身



楽しく豊かな音色を
子どもたちの未来へ。

my SPACE

2

体育館

「どこよりも練習を楽しんで強くなるう」。それが私たち剣道部のモットー。この体育館で練習し、つらいこと、楽しいこと、色々ありますが、剣道を通して、相手の気持ちを汲み取る習慣が自然と身に付けられました。将来、保育士になっても役立てていきたいですね。

人間科学部
子ども教育学科 / 3年
佐藤千幸さん
山形県立酒田東高等学校出身



大好きな剣道に打ち込み
自分を解放できる場所。

my SPACE

5

購買部

幼稚園教諭という目標に向かって、駆け抜けた2年間。つまづいた時や悩んだ時、自然と足が向く場所が購買部でした。みんなに“お母さん”と慕われる職員さんと、色んな話をしたことは忘れられない思い出です。そんな職員さんや、熱意をもって自分を変えてくれる先生と出会えて良かったです。

短期大学部
子ども学科 / 2年
高橋大輝さん
米沢中央高等学校出身



夢への挑戦を後押ししてくれた
もう一人の“お母さん”の存在。

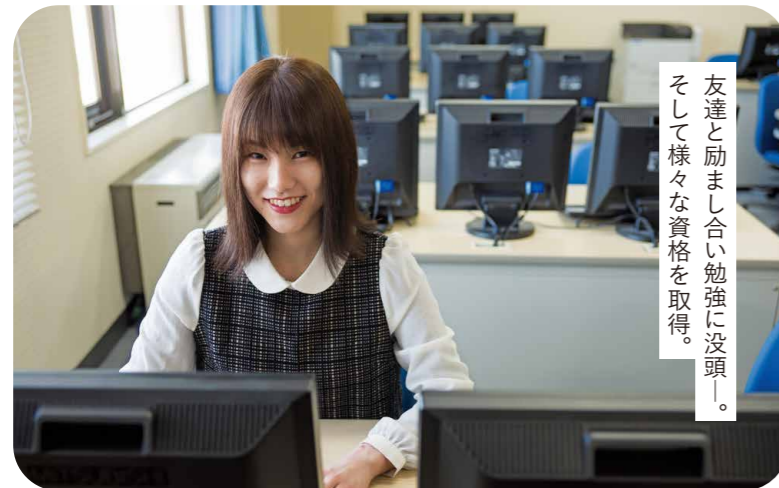
my SPACE

3

マルチメディア
演習室

全員が正面を向くパソコンの配置で、勉強に集中できる、この演習室。友達と夜遅くまで、レポート課題に夢中で取り組んでいた思い出があります。常に働くことを意識できた学びと、大学で得た資格を活かして、社会では求められたことプラス、自分にしかできないことを提供できる人になりたいですね。

短期大学部
総合文化学科 / 2年
板垣結子さん
山形学院高等学校出身



友達と励まし合い勉強に没頭。
そして様々な資格を取得。

my SPACE

6

介護実習室内
和室スペース

憧れていた介護福祉士の夢を叶えることができたのは、充実した学習環境と、先生方の丁寧な指導のおかげだと感じます。介護実習室には、畳の部屋で生活する高齢者の介護を想定して和室スペースが設けられています。授業外では自習などで利用し、友達とテスト勉強に励んだ日々は、大学生活の大切な1ページです。

短期大学部
人間福祉学科 / 2年
高内翔太郎さん
山形城北高等学校出身



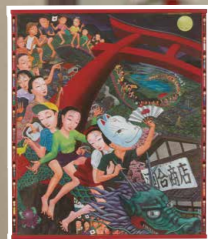
実践的な介護スキルを
磨くとともに自習にも励んだ日々。



結城 萌香さん
(山形県立天童高等学校出身)



子ども教育学科教授(副学科長)
KAWAI NORIHIITO



教授プロフィール
東北文教大学 人間科学部 子ども教育学科教授、副学科長。東京藝術大学大学院修士課程修了。左の作品は第84回独立展・損保ジャパン日本興亜美術財団賞「龍神様ノ云フ通り」

アートを通じて生まれる幸福感。
相手を認め、寄り添うことで
人生が豊かに彩り始める。

その人ならではの
表現の可能性を引き出す

結城 先生のご専門の一つである「臨床美術」について教えてください。

河合 臨床美術は、絵やオブジェなどの作品を楽しみながらつくる独自のアートプログラムを通して脳を活性化させるもので、高齢者の介護予防や認知症の予防・改善、子どもの教育などに効果が期待できる芸術療法のひとつです。特定非営利活動法人 日本臨床美術協会が認定する「臨床美術士」の資格を持った人たちの活動によって、医療福祉や教育、労働の現場など、多方面に広がっています。

結城 臨床美術にはどんな特徴がありますか?

河合 作品をつくる人の存在自体を尊ぶという考え方が基本です。例えば、高齢者は体の機能が低下すると自分でできることが減っていきますよね。だからと言ってその方に価値がないのかというと、そんなことはない。その方をまるごと承認し、その

方ならではのアートの表現を引き出してあげることが大切です。本来、表現は広がる、深まるもの。そこに上手い、下手といった優劣の概念は存在しないのです。そして、臨床美術アートプログラムで作品を制作すると、一つとして同じものにはならず、個性あふれる作品が生み出されます。

ささいなことに気が付ける
感性の豊かさを大切に

結城 対象が子どもの場合は、特にどんなことに配慮すべきなのでしょう?

河合 子どもは大人に比べ経験値が低く、イメージの蓄積が十分でない場合がありますので、プログラムの導入部分でイメージを喚起する工夫が必要になります。例えば、花火がテーマの場合は、花火にまつわる思い出を子どもたちに話し合ってもらったり、花火の大きさを体で表現する遊びを取り入れてみたり。「今日は風景をテーマに自由に絵を描いてください。」小・中学校の図画工作や美術の授業で、突然そんな風になら

ず困った経験のある人は少なくはないはず。風景をどんな風に捉えて、どう表現したらいいのか、その知識や技能を教わっていないのに、描けるわけはありませんよね。しかも、絵がまるで本物のように見えることが正しいかのような「再現性」を評価の尺度にされてしまう。僕が臨床美術を学ぶようになった背景には、そうした従来の美術教育の在り方への疑問がありました。

結城 臨床美術に取り組む上で、大切なことは何ですか?

河合 個々の作品の微妙な表現の差異にも気が付くことができる、感性の豊かさが大切です。さらに相手に寄り添いながら、一つひとつの作品の良さをきちんと言語化して伝えられる。そうした対人スキルも欠かせないものです。



NOTICE BOARD

AWARD 橋本美香教授の論文が『日本死の臨床研究会』の奨励賞を受賞。



人間福祉学科の橋本美香教授(学科長)の論文「特別養護老人ホームにおける看護職を対象とした看取りプログラム試案の作成」が、『日本死の臨床研究会』の奨励賞を受賞しました。この論文は、特別養護老人ホーム(以下、特養)の看護職が高齢者の望ましい看取りを実践するために必要な教育プログラムの試案の作成過程をまとめたものです。本研究の全体像は、特養の看護職の看取り上の課題を明らかにした第1稿、今回の第2稿、最終稿として現在投稿中の特養の看護職の看取りの教育プログラムの開発から成り立っており、博士論文の公表を目的として執筆していたものです。

REPORT 子ども学科「子どもフォーラム」を開催。



2月10日、やまぎんホール(山形県民会館)において子ども学科による「平成29年度子どもフォーラム」が開催されました。これは、2年生にとっての学びの集大成の場、1年生にとってのさらなるステップアップの場として開催している学科の伝統行事です。午前中は卒業研究の口頭発表が、午後は今年度より設けられた卒業研究優秀論文の発表が行われました。これは、卒業生たちのこれからの学びへの意欲と、在学生の意欲の喚起を目的に設けられたものです。この他、1年生と付属幼稚園年長児との合唱・合奏や卒業研究のステージ発表である創作オペレッタ「エレナと魔法の花」の上演がありました。

REPORT サイバー韓国外国語大学との意見交換会を実施。



昨年12月に大学間交流協定を結んだサイバー韓国外国語大学と本学の間で、1月17日に意見交換会を行いました。サイバー韓国外国語大学は、世界最高レベルのIT技術を基盤に、オンライン教育の先導的教育機関として国際専門家を養成する韓国最初のサイバー大学です。当日はインターネットによる遠隔通信環境を使って、本学鬼武一夫学長とサイバー韓国外国語大学の金重烈総長とが、相互交流について意見を交わしました。今後は、オンラインコンテンツの履修や学生同士の交流を通じて、両校の交流を活発なものとしていくことなどが話されました。

REPORT 人間福祉学科「介護福祉フォーラム」を開催。



2月16日、山形テルサにおいて人間福祉学科による「平成29年度介護福祉フォーラム」が開催されました。これは毎年行われている学科行事の一つで、2年間の学びの集大成といえるものです。学生たちの研究発表のテーマ内容は介護分野だけに限らず、地域社会や日本の福祉の現状に目を向けたもの、また栄養学や被服といった多岐に亘りました。この他に全体会として卒業生の実践報告、1年生による音楽や演劇の舞台発表、2年生によるレクリエーションの発表もありました。介護実習先の実習指導者をはじめ、地域の方、保護者、高校生、在宅訪問活動でお世話になった方など50名の方々にご来場いただきました。



“地元のために働きたい”
想いをカタチにしてくれた
大学での学びとご縁。

GOTO CHIKA
後藤 千夏さん (旧姓・齋院)
株式会社きらやか銀行 さくらんぼ東根支店

山形県内に本社を置く株式会社きらやか銀行で、営業職を担当しています。志望のきっかけは、大学で行われた企業説明会。説明に訪れた役員の方の「地域に根差した銀行です」という言葉と熱意が、当時、地域の活性化をテーマに学びを深めていた私の「地元のために役立ちたい」という気持ちに響いたのです。漠然としていた想いが、明確な職業イメージに結びついた瞬間でもありました。

在学中には資格の取得に力を入れ、上級ビジネス実務士・情報処理士・ピアヘルパーなど、5つの資格を取ることができました。これらの資格と大学の授業は、実務に携わる中で役立っていると感じます。特にビジネスマナーや情報処理の授業。様々なお客様と直接お会いする業務なので、マナーはやはり大切です。学生時代から専門の先生に教えていただけて本当に良かったと思います。

お客様の大切なお金を預かる仕事ですから、いつも緊張感を持つように努めています。そんな毎日の中でやりがいを感じるのは、お客様に『ありがとう』と言っていたただけの瞬間。そして信頼関係を築けた時は、もう心に染みますね。

学生と社会人の大きな違いは「責任」だと思います。常に結果を求められますし、会社の一員としてプレッシャーを感じる時もありますが、自分がやりたい仕事をできているので頑張れます。だから学生のうちは大いに悩んで、迷えば良いと思うんです。学生時代はそれが許される期間でもあるし、「こうしたい!」という確かな気持ちさえあれば、それを後押ししてくれる環境が東北文教大学にはあります。まずは大きな希望を持って、充実した大学生活を楽しんでもらいたいですね。

私の HISTORY

プロフィール
1990年生まれ。山形県立谷地高等学校出身。2011年総合文化学科卒業。同年株式会社きらやか銀行に入社。山形北・宮町支店、間沢・西川支店勤務を経て、現在はさくらんぼ東根支店に勤務。

1年次

「早く自立したい」という思いから、短期大学部に入学

2年次

ゼミでの学びを通して地域の活性化に興味を抱くように

1年目

山形北・宮町支店に配属

「大人の世界はこんなに厳しいのか」と挫折を経験

ここがターニングPoint!

「成せば成る」をモットーに、改めて奮起しました



4年目

間沢・西川支店に配属
「歩く窓口」として業務全般に精通していく

8年目

さくらんぼ東根支店に配属
結婚。人生の節目を迎え、ますます仕事に情熱を注ぐ